

# 通信

NO. 85  
2020年2月号

## ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目  
33番11-702号  
☎092-409-4177

### 今月のスケッチ

## 私のいとと



私のいとと。 20.2.10 reuma

昨年の12月に妹が生まれ、お姉ちゃんになりました。

お姉ちゃんは、今月2歳の誕生日を迎えます。

妹がかわいくて、大好きです。

## スタ コラ

## 令和の郷

神戸 暁

元号が令和と改まって以来、大宰府が令和の郷として全国的に有名になりました。ゆかりの地大宰府の師（長官）大伴旅人

宅があったとされる坂本神社は連日観光客でにぎわっています。

天平2年（730）1月13日、大宰府の師（長官）大伴旅人の邸宅で梅花の宴が行われました。出席したのは大宰府の高級官僚と地方の国守、国司ら32人で、その中には太宰少弐小野老や筑前国守山上憶良がいました。いずれも位階に応じた色鮮やかな朝服（日常勤務服）をまとっており、正三位の大伴旅人は浅紫、従五位上の小野老と従五位下の山上憶良は浅緋色の朝服でありました。

出席者全員が一首ずつの和歌を詠み、それを歌集としましたが、その歌集の序文の中から令和という元号が考えだされたわけです。この序文を書いたのは山上憶良であったという説を唱える専門家がおります。彼の文学的素養と語学力から推してそのような説が生まれるわけです。憶良ファンの私としては大いに賛成であります。

憶良は、若いころから語学に秀でており遣唐使に記録係として加わっております。また聖武天皇が若かったころの教育係にもなっています。出自の低さから従五位下までしか昇進することはできませんでしたが、彼の残した歌には貧しい人々を思いやるものや子供への愛情を読んだものも多く、1300年の時空を超えて今でも人々に愛されています。

憶良と旅人のつながりは、年齢では憶良が上ですが、地位は従五位下と正三位と大きな隔たりがあります。それにも関わらず二人の親交は厚く、旅人の妻がなくなった時に旅人に代わって悲しみを讀んだ憶良の和歌が残っています。

旅人と憶良を中心にしてのちに筑紫歌壇と称されるような和歌のサロンが形成されていたのでしょうか。旧暦とはいえ1月13日はまだ寒かったはずですが、催された梅花の宴は暖かい春の兆しを思わせます。おそらくこの頃の筑紫地方は平和で穏やかな時代であったのでしょうか。

令和の時代も平和で穏やかな時代であるような期待が持てます。

## ヒマラヤユキノシタ



庭の片隅で、今年もヒマラヤ雪ノ下が春を告げている。

このヒマラヤユキノシタは、久留米の“山苞の道”にある喫茶店の店先に咲いていたものを切り花にして頂いたものを、土に差し根付いた。

毎年しっかり花を咲かせるころまで育っている。

この「通信」の包装は、袋や用紙、宛名カードの材質の影響で、多少のずれやしわ、ゆがみなどがある場合があります。ご容赦ください。



映画大好きな山ちゃんが、毎回、自分の言葉で執筆します。

# 野獣の青春



監督：鈴木 清順  
出演：宍戸 錠  
木島 一郎  
渡辺美佐子  
川地 民夫  
1963年 日活

大藪晴彦のハードボイルド小説「人狩り」を映画化したもの。鈴木清順監督(2017年慢性閉塞性肺疾患のため死去)が、「清順美学」と呼ばれる奇抜な作風を開花させ、注目を浴びるきっかけとなった作品。

すでに日活アクション映画のスターだった宍戸錠を主役に迎え、堂々たる演出でクールな作品に仕上げている。

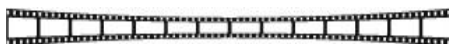
また、60年代初期の東京や、ギャングたちが使うクラシックな車も懐かしく見どころも満載。

物語は、情婦によって、無理心中に巻き込まれた警官の死因に疑いを抱いた元警官の水野錠次(宍戸錠)が単身で潜入捜査

に挑むことから始まる…。

「エースのジョー」の愛称で親しまれ、日活アクション映画の一翼を担った俳優の宍戸錠(ししどじょう)さんが86歳で亡くなられた。

ご冥福をお祈りいたします。追悼を込めて。



## くまさんのコンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

## 「通信」を発行して8年目を迎えました。

“情報発信企業としての役割を果たそう”と、平成25年2月、「通信」を発行し始めました。



創刊号には、太宰府天満宮の“飛梅が八分咲き”の記事やロンドンパラリンピックの金メダリスト(ゴールボール)の浦田

理恵さんのお話を聞く機会があったこと、編集後記では、「身近で、役に立つ通信として、毎月発行を目指します」と宣言しています。

それから7年が経過し、今月85号を迎えました。

この「通信」の編集方針は、①役に立つ情報②季節の話題③身近な記事④連載記事⑤読者の参加——を基本として発行してきました。

この編集方針が、どこまで貫かれているかは、皆さんの判断にゆだねますが、今後でもできるだけ、発信していければと考えています。今後ともよろしくお願ひします。



## 編集後記

国権の最高機関である国会が荒れている。

行政府の長が、国民の代表である国会議員の審議権を否定し、検察庁法を無視した定年延長をゴリ押し、“憲法の番人”のすげかえを狙っている。

今まさに、三権分立を踏みにじる民主主義の危機が進行しているように思える。

“立憲主義を守れ”は、保守革新を問わず強くなっている。

Relationship & Partnership **総研**

**ビジネス総研株式会社**

福岡市博多区博多駅前4-33-11-702

☎092-409-4177 FAX092-409-4170

Eメール [kuma@b-souken.com](mailto:kuma@b-souken.com)

<http://www.b-souken.com>